

新幹線の車内業務見直しに関し、JR東海ユニオン本部に以下のお願いを持参しましたが、受け取ってはいただけませんでした。

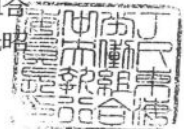
2017年8月8日

東海旅客鉄道労働組合

中央執行委員長 鎌田 茂 殿

JR東海労働組合

中央執行委員長 小林 光昭



お客様・乗務員の安全確保及び働きやすい職場確保に向けた話し合いのお願い

残暑厳しい折、皆様方におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、JR東海労は、来春のダイヤ改正から行われる予定の「東海道新幹線の車内業務見直し」について、お客様・乗務員の安全確保、働きやすい職場確保の観点から、以下のことなどについて問題があると考えています。またこれらのことがら、全乗務員に共通する問題だと考えますので、改善等を共に考える場の設定の検討をお願いします。

記

1. 車掌業務について

自由席改札は、現行でも業務量が多いため、2人では対応できないのが現状ですので、自由席改札は無くすべきと考えます。

2. 運転士業務について

① クルー化により、運転士行路は大幅な労働強化になります。「1丁半行路」が作成される恐れがあります。また、休養時間が削減され健康や安全にも影響が出てくるのは明らかです。車掌・運転士のクルー化をやめるべきと考えます。

② 運転車掌がドア扱い出来ない場合、運転士がドア扱いを行うとしていますが、運転士は安全の為に運転に集中するべきです。運転士がドア扱いを行うべきではないと考えます。

3. JRCPへの出向について

① JRCPへの出向は、パーサー要員の確保が目的化していることが伺われます。パーサーの要員確保は、JRCPの問題であるので、JR東海からの出向はやめるべきと考えます。

② ①でやむを得ず要員確保が困難な場合、出向は希望者を募集して行くべきと考えます。また、出向者には丁寧な説明が必要です。本人の承諾無しの出向はやめるべきと考えます。

③ 出向の期間、復帰後の職種については個別で対応する方向でいます。出向期間はルールを決めて、復帰後は元職場にすることを明確化するべきと考えます。

4. JRCPへの業務委託について

① 「こだま」の乗り組みは、提示されたものは要員が同じであるため、変更する必要は無く、現行通りとするのが望ましいと考えます。「こだま」の乗り組みは現行のままとするべきと考えます。

② 2015年6月30日に発生した「のぞみ225号」における列車火災事故の様な異常時が発生した場合、パーサーも異常時対応を行わなければなりません。日常訓練を受けていないパーサーは、異常時対応が適切に出来るか不安であるという意見が出されています。お客様・乗務員の安全確保の観点から、JRCPへの業務委託はやめるべきと考えます。